



目標に向かって

校長 平松 新太郎

2学期が始まりました。大きな事故やけがの報告なく夏休みを終えられたこと、保護者・地域の皆様に心より感謝申し上げます。

この夏休みは、日本各地が多く自然災害に見舞われました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を強く願っております。

東大和市や東京都でもいつどのような災害が発生するか予想が付きません。「自分の命は自分で守る」意識を日頃から子供たちの中に育てていくことの大切さを改めて感じています。

2学期も運動会をはじめ多くの行事があります。子供たちが互いに協力し合い、目標に向かって努力する過程で、一回りも二回りも大きく成長する時期です。保護者・地域の皆様と協力し、子供たちが安心して教育活動に取り組める環境づくりに努めてまいります。

令和8年度の全国学力学習状況調査の結果が出ました。(平均正答率%)

	国語			算数		
	知識・技能	思考・判断・表現	全体	知識・技能	思考・判断・表現	全体
八小	64.8	62.2	63.0	61.2	46.3	57.0
東京都	65.8	64.1	65.0	67.1	51.1	63.0
全国	62.0	60.1	60.9	60.1	45.4	56.4

【国語】

漢字、語彙、文法などの基礎的な学習内容は概ね定着しています。一方で、自分の考えを根拠とともに記述する問題に苦手意識をもつ児童が多く見られます。今後の授業改善に向けて、次の3点に取り組んでいきます。

- ①「書く」活動の日常
- ②条件付き記述の徹底
- ③対話的な学びの充実

実は、この実態はこれまでも八小の課題となっています。今年度は校内研究のテーマを「感じたことや考えたことを表現できる児童の育成～書く力の向上を目指して～」として、今年度当初から「書く」ことに力を入れています。今回の結果を受けて、更に授業改善に励みます。

【算数】

基礎的な計算問題は、身に付にいている児童が多くいます。一方で、「文章題から必要な情報を読み取る」「理由を言葉や数式で説明する」「条件を変えて決まりを見付ける」など、記述や複数のステップを要する問題で多くの児童が苦手意識をもっている実態があります。

今後の授業改善では、「なぜその式になるのか」一人一人が考えたり説明し合ったりすること、問題文の「使わない数字」や「余計な条件」が含まれている問題を意図的に扱い条件を整理する経験を積むことなどを通して、未知の課題や複雑な状況に対して、情報を整理し、論理的に考え解決する力を付けていきます。

数値だけを比較して学力を図ることはできませんが、調査結果を受け授業改善を行うことが求められます。それは、子供たちが将来、変化の激しい社会を生き抜くための力を育てるため、子供たちの未来（10年後20年後）のために行うものです。

2学期もよろしくお願いいたします。